

令和6年度 栃木県こどもモニター
第1回アンケート結果
(高校生～22才)

調査実施の概要

1. 栃木県こどもモニターってなに

栃木県は、こどもに関する施策を考えて実現するため、こどもや若者、保護者の意見やアイデアを継続的に集め、政策に取り入れることを目的として「栃木県こどもモニター」を募集します。

モニターのみなさんには、栃木県についてのアンケートから意見を収集し、これからの栃木県の施策やルール作りにつなげていきます。

もっと暮らしやすい栃木県になるように、いっしょに考えよう！

2. 第1回アンケート期間

令和6年7月9日（火曜日）から8月5日（月曜日）

3. アンケート方法

アンケート対象者にメールで回答 URL を送付、WEB サイトを通じてアンケートに回答。

4. モニター数

185名

5. 第1回アンケート回答者数

124名

6. 第1回アンケート回答率

67.0%

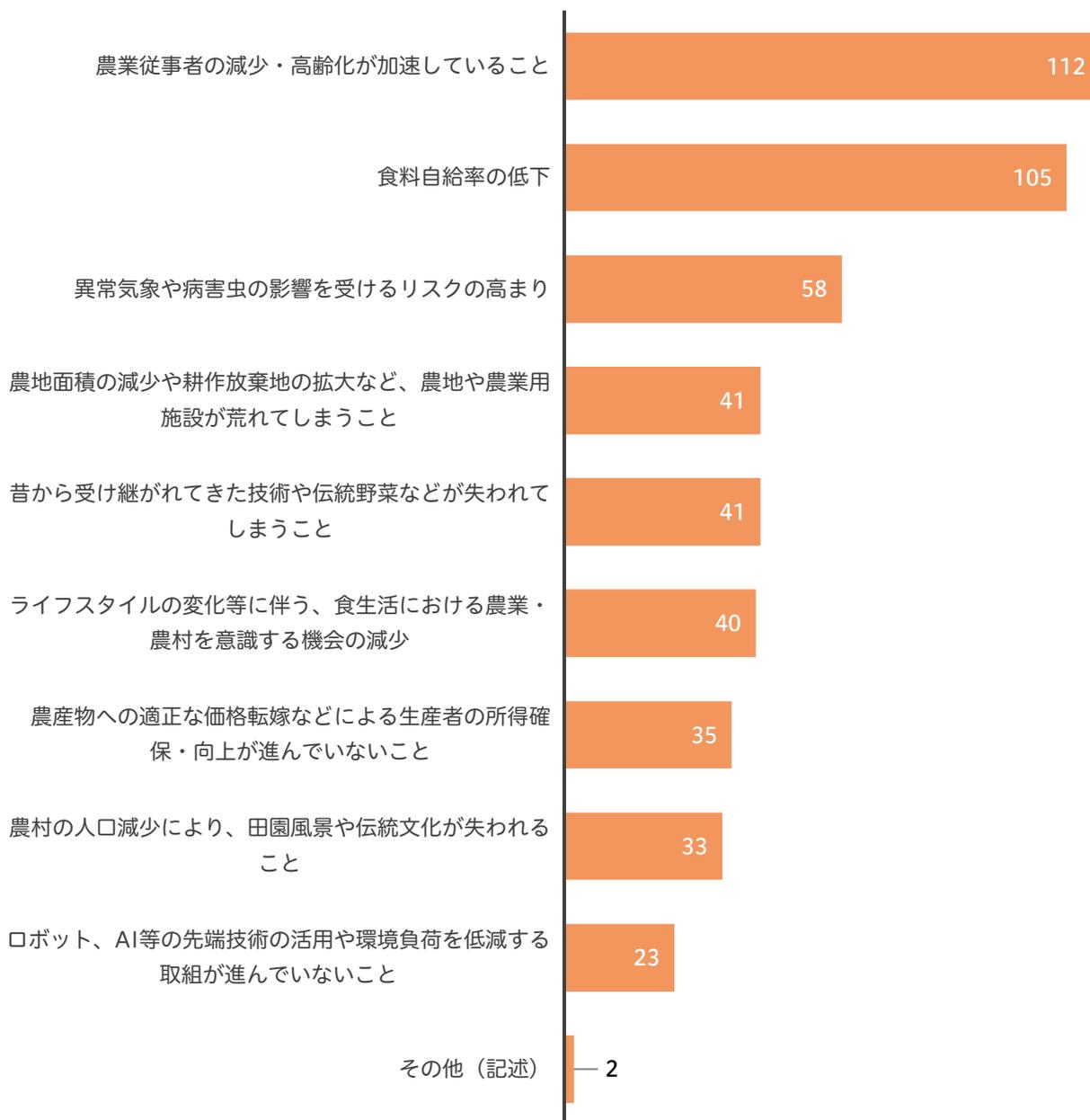
※「その他」を選択した場合の自由記述欄は原文のまま掲載しています。

性別	アンケート 対象者	回答人数	構成比	回答率
男性	50	34	27.4%	68.0%
女性	133	90	72.6%	67.7%
その他	2	0	0.0%	0.0%
合計	185	124	-	67.0%

学年	アンケート 対象者	回答人数	構成比	回答率
高校1年生	27	24	19.4%	88.9%
高校2年生	94	50	40.3%	53.2%
高校3年生	12	12	9.7%	100.0%
16才	2	1	0.8%	50.0%
17才	2	0	0.0%	0.0%
18才	5	3	2.4%	60.0%
19才	11	10	8.1%	90.9%
20才	17	10	8.1%	58.8%
21才	13	12	9.7%	92.3%
22才	2	2	1.6%	100.0%
合計	185	124	-	67.0%

※ 集計結果は百分率(%)で示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出したものになります。
そのため、合計が100.0%にならないものがあります。

Q1. 「いまの農業を取りまく課題」のなかで、知っているものは次のうちどれですか。【いくつでも選んでください】



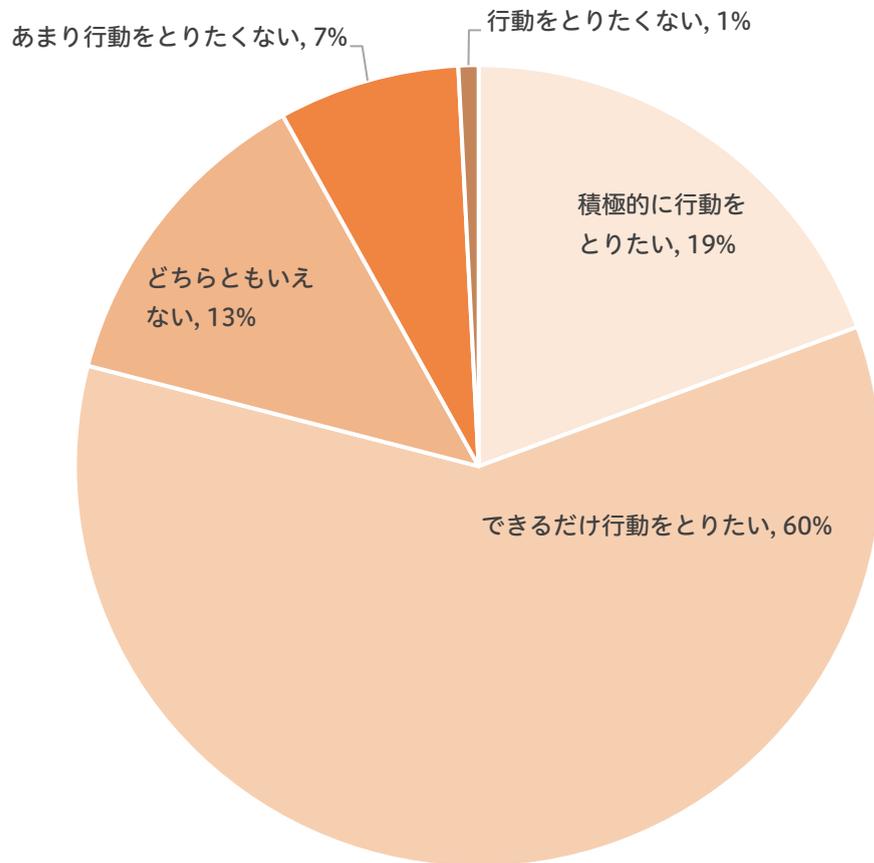
【調査結果の概要】

「農業従事者の減少・高齢化が加速していること」(112件)が最も多く、以下、「食料自給率の低下」(105件)、「異常気象や病害虫の影響を受けるリスクの高まり」(58件)などが続いている。

【その他の自由記述】

- ・ TPPの関税撤廃による海外産作物の流入と市場価格競争の激化
- ・ 今、大学の農学部で学んでいます

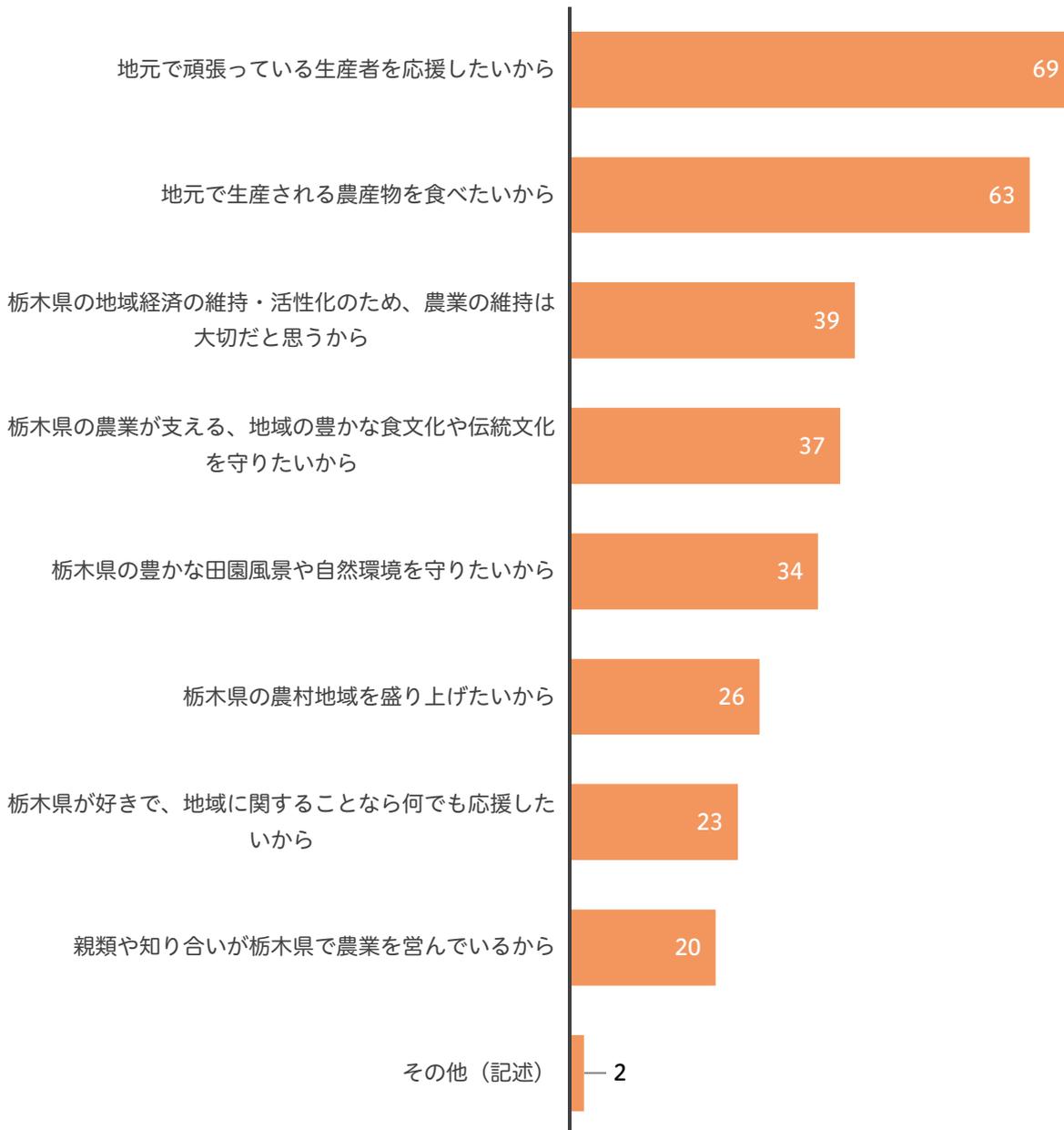
Q2.あなたは「自分も栃木県の農業を応援する行動をとりたい」と思いますか。【ひとつだけ選んでください】



【調査結果の概要】

「できるだけ行動をとりたい」(60%)が最も多く、「積極的に行動をとりたい」(19%)続いており、行動をとりたいと考えているひとは、73%であった。

Q3.「Q2」で「積極的に行動をとりたい」「できるだけ行動をとりたい」を選んだ方にお聞きします。そう思った理由を教えてください。
【いくつでも選んでください】



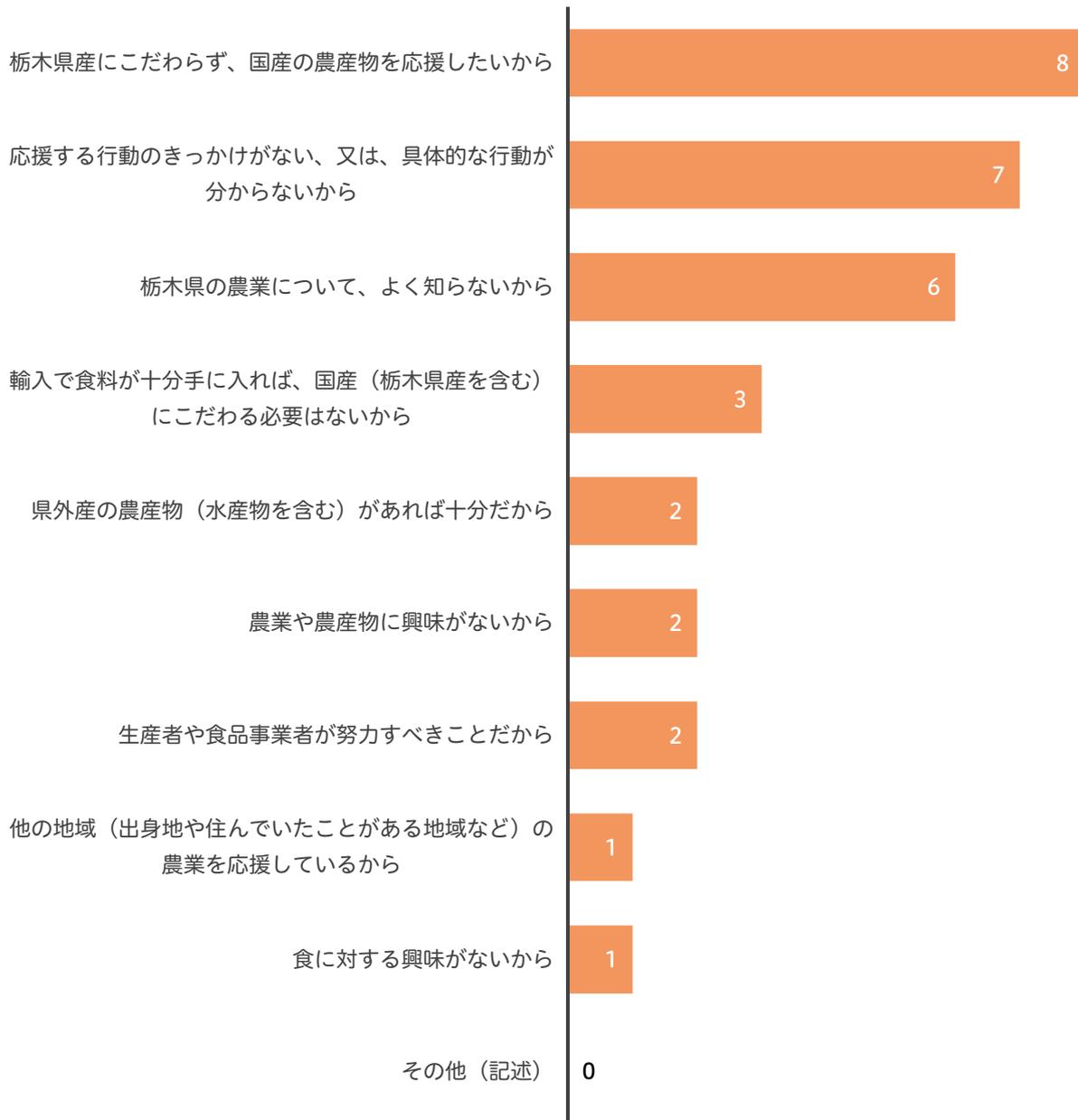
【調査結果の概要】

「地元で頑張っている生産者を応援したいから」（69件）が最も多く、以下、「地元で生産される農産物を食べたいから」（63件）、「栃木県の地域経済の維持・活性化のため、農業の維持は大切だと思うから」（39件）などと続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 自分で就農や6次産業等に興味があるから
- ・ 栃木県の、農作物を食べるから、。

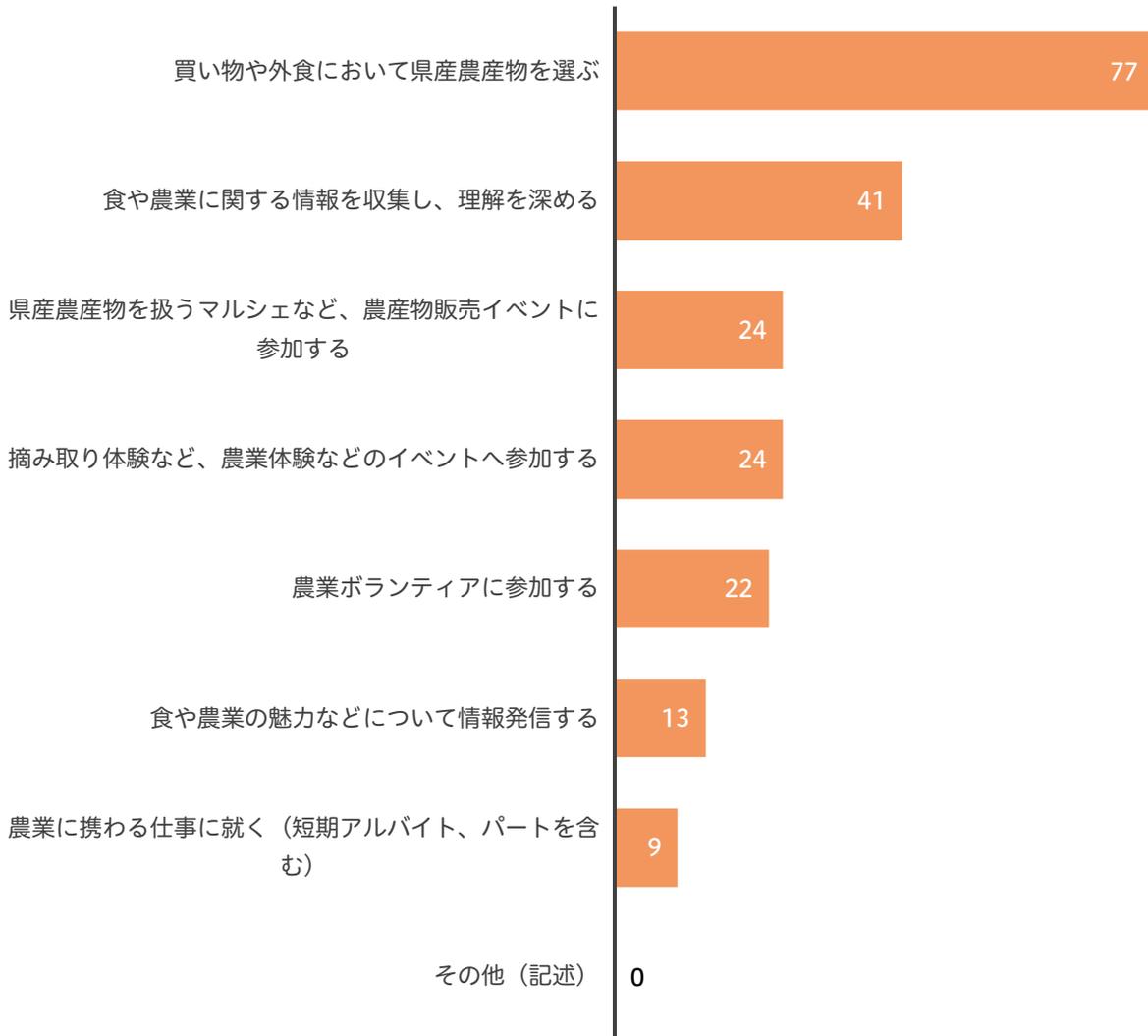
Q4.「Q2」で「あまり行動をとりたくない」「行動をとりたくない」を選んだ方にお聞きします。そう思った理由を教えてください。【いくつでも選んでください】



【調査結果の概要】

「栃木県産にこだわらず、国産の農産物を応援したいから」（8件）が最も多く、以下、「応援する行動のきっかけがない、又は、具体的な行動が分からないから」（7件）、「栃木県の農業について、よく知らないから」（6件）などと続いている。

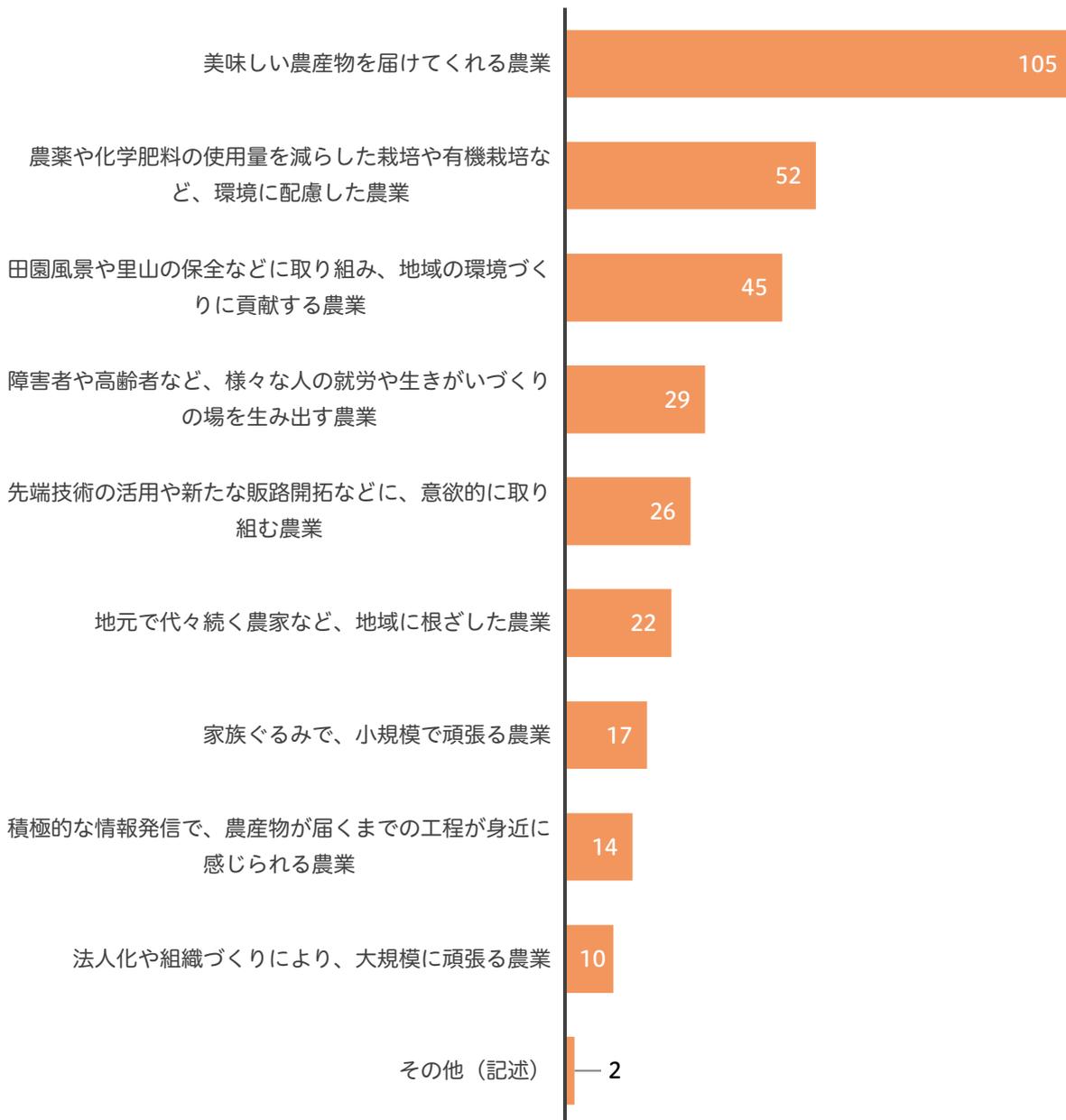
Q5.「Q2」で「積極的に行動をとりたい」「できるだけ行動をとりたい」を選んだ方にお聞きします。こういった行動で応援したいと考えていますか。【3つまで選んでください】



【調査結果の概要】

「買い物や外食において県産農産物を選ぶ」（77件）が最も多く、以下、「食や農業に関する情報を収集し、理解を深める」（41件）、「県産農産物を扱うマルシェなど、農産物販売イベントに参加する」（24件）、「摘み取り体験など、農業体験などのイベントへ参加する」（24件）などと続いている。

Q6.あなたが応援したいと思う農業は、どんな農業ですか。【3つまで選んでください】



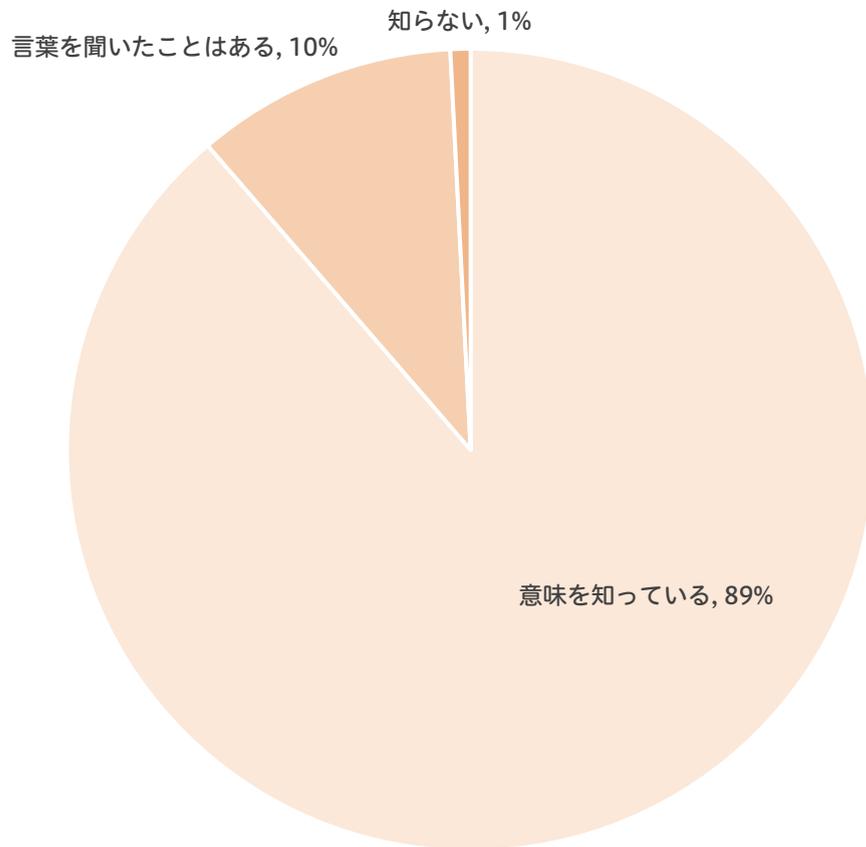
【調査結果の概要】

「美味しい農産物を届けてくれる農業」（105件）が最も多く、以下、「農薬や化学肥料の使用量を減らした栽培や有機栽培など、環境に配慮した農業」（52件）、「田園風景や里山の保全などに取り組み、地域の環境づくりに貢献する農業」（45件）などと続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 特産物の価格が優しい（低い）農業
- ・ 伝統的な作物を継承する農家さん

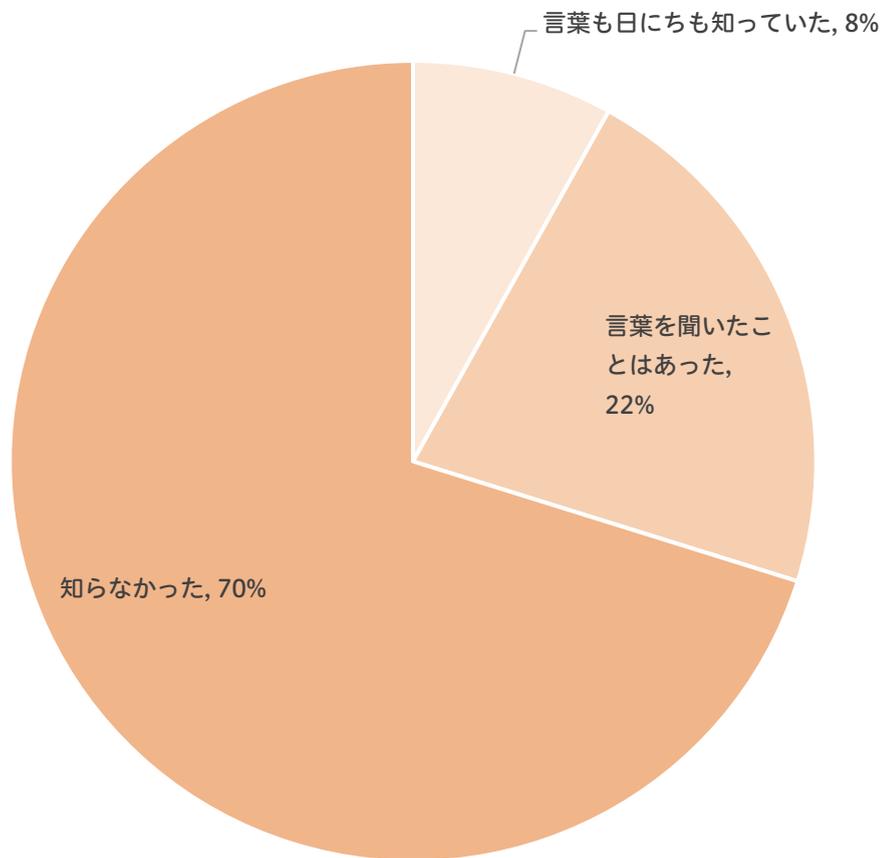
Q7.「地産地消」という言葉の意味を知っていますか。【ひとつだけ選んでください】



【調査結果の概要】

「意味を知っている」(89%)が最も多く、以下、「言葉を聞いたことはある」(10%)、「知らない」(1%)と続いている。

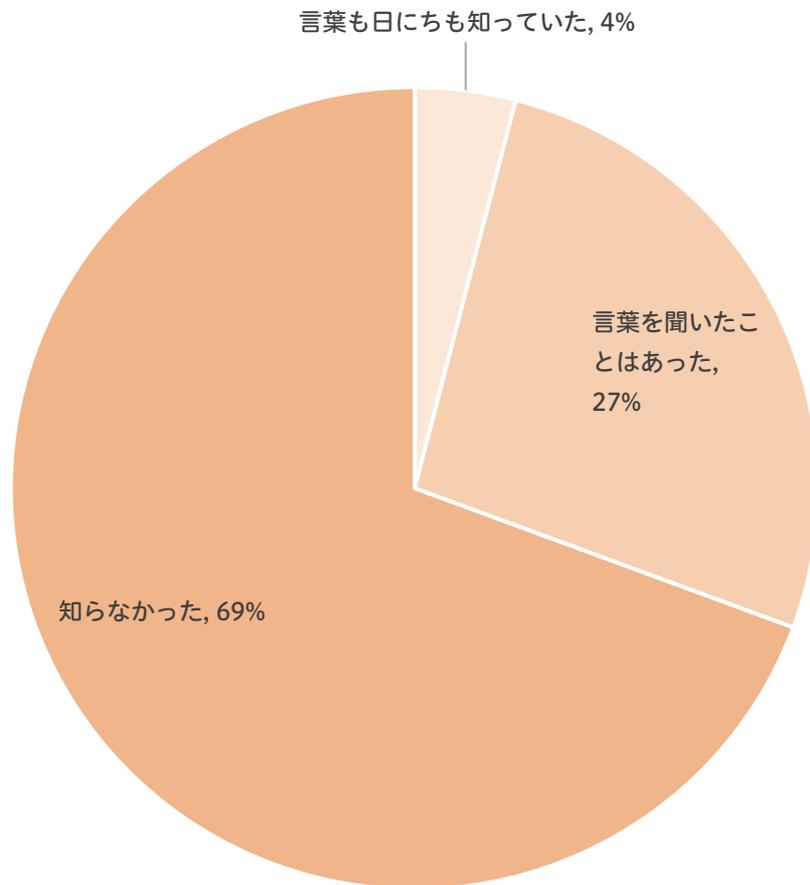
Q8.栃木県は、毎月18日を「とちぎ地産地消の日」としています。そのことを知っていましたか。【ひとつだけ選んでください】



【調査結果の概要】

「知らなかった」(70%)が最も多く、以下、「言葉を聞いたことはあった」(22%)、「言葉も日にちも知っていた」(8%)と続いている。

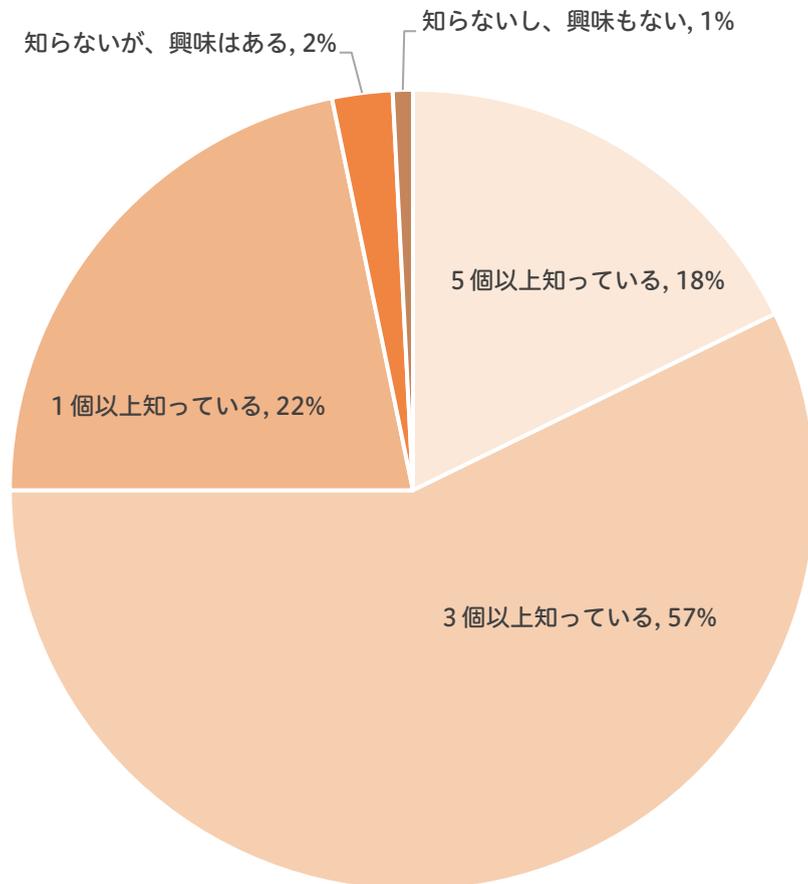
Q9.内閣府は、毎月19日を「食育の日」としています。そのことを知っていましたか。【ひとつだけ選んでください】



【調査結果の概要】

「知らなかった」(69%)が最も多く、以下、「言葉を聞いたことはあった」(27%)、「言葉も日にちも知っていた」(4%)と続いている。

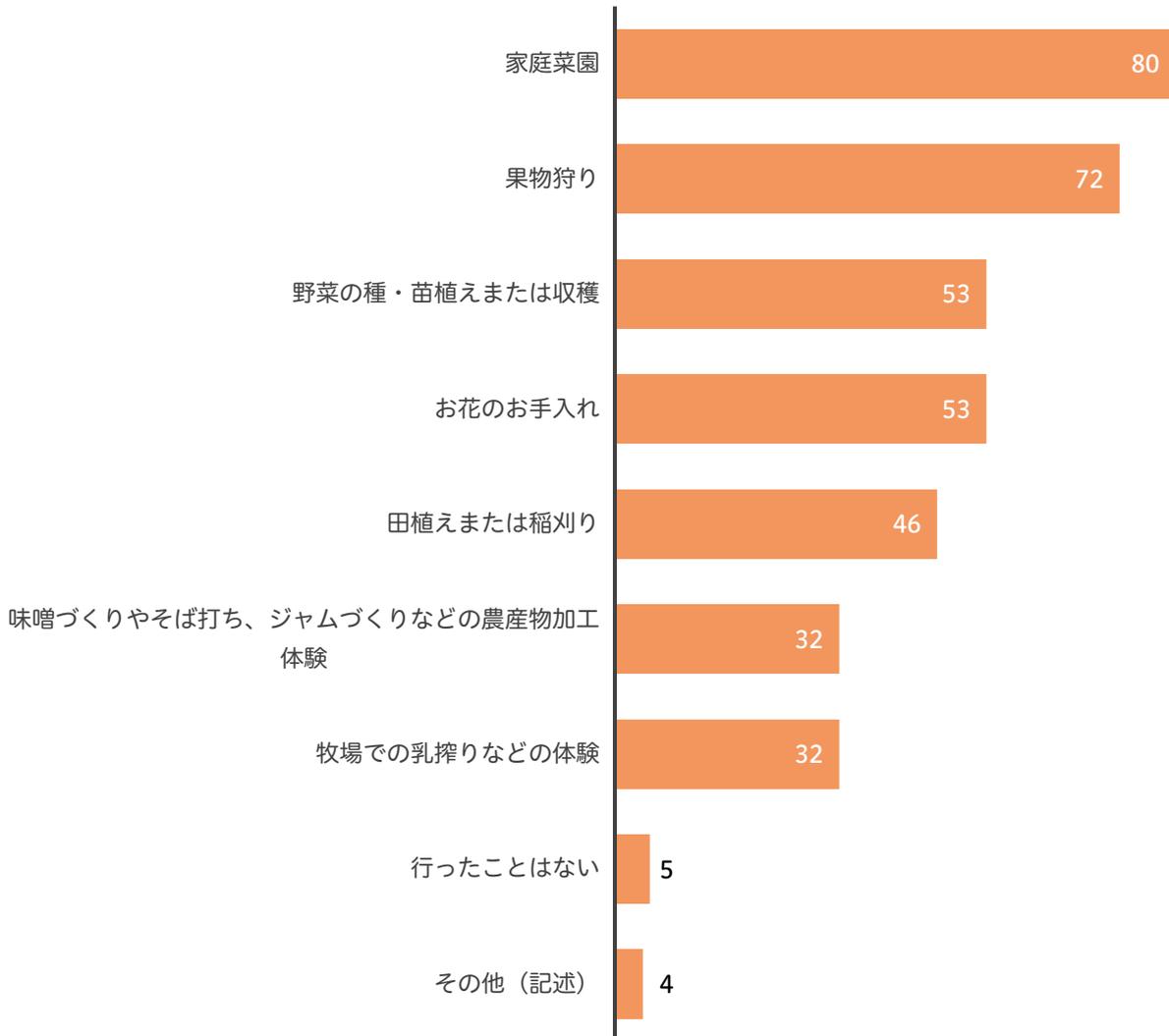
Q10.あなたが住んでいる地域で生産されている、主な農産物をいくつ知っていますか。【ひとつだけ選んでください】



【調査結果の概要】

「3個以上知っている」(57%)が最も多く、以下、「1個以上知っている」(22%)、「5個以上知っている」(18%)などと続いている。

Q11.学校以外で、農業についての体験をしたことがありますか。次のうち行ったことがあるものを選んでください。【いくつでも選んでください】



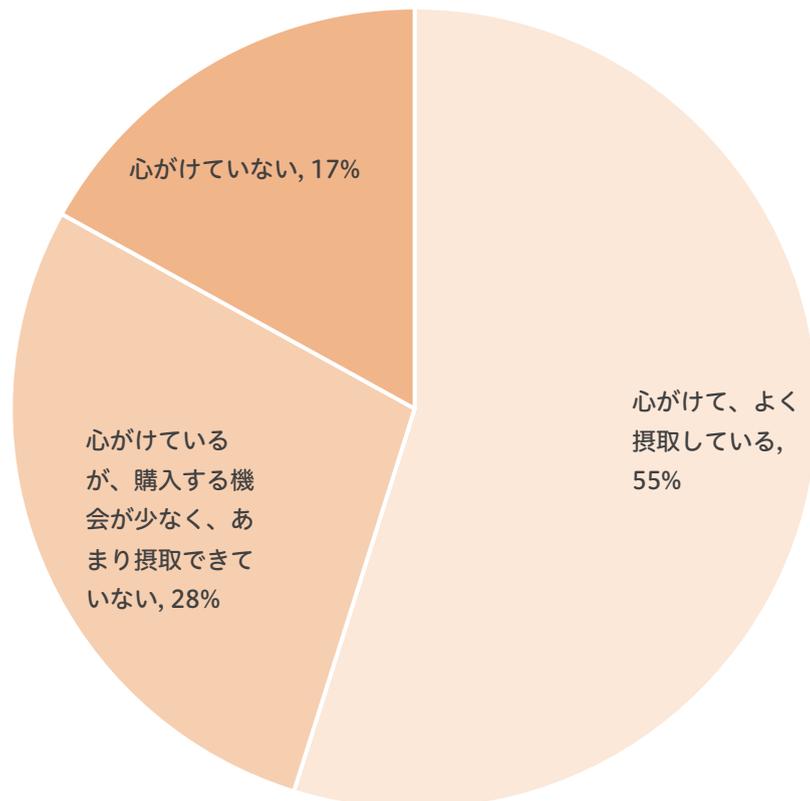
【調査結果の概要】

「家庭菜園」(80件)が最も多く、以下、「果物狩り」(72件)、「野菜の種・苗植えまたは収穫」(53件)、「お花の手入れ」(53件)などと続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 祖父母の家で体験した
- ・ 芋ほり
- ・ 藍の収穫
- ・ 家がいちご農家でその手伝いをしているので経験がある

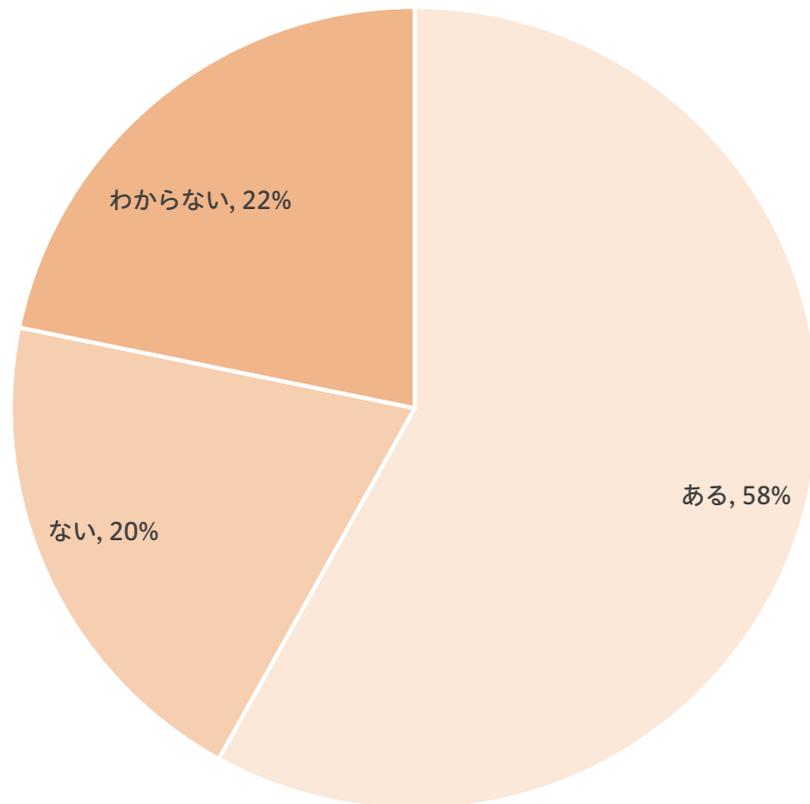
Q12.「日本人は、特に義務教育を終えた年代から、カルシウムの摂取量が足りていない」という調査結果があります。牛乳・乳製品は、カルシウムを効率的に摂取できる食品ですが、あなたは牛乳・乳製品を摂取するように心がけていますか。【ひとつだけ選んでください】



【調査結果の概要】

「心がけて、よく摂取している」(55%)が最も多く、以下、「心がけているが、購入する機会が少なく、あまり摂取できていない」(28%)、「心がけていない」(17%)と続いている。

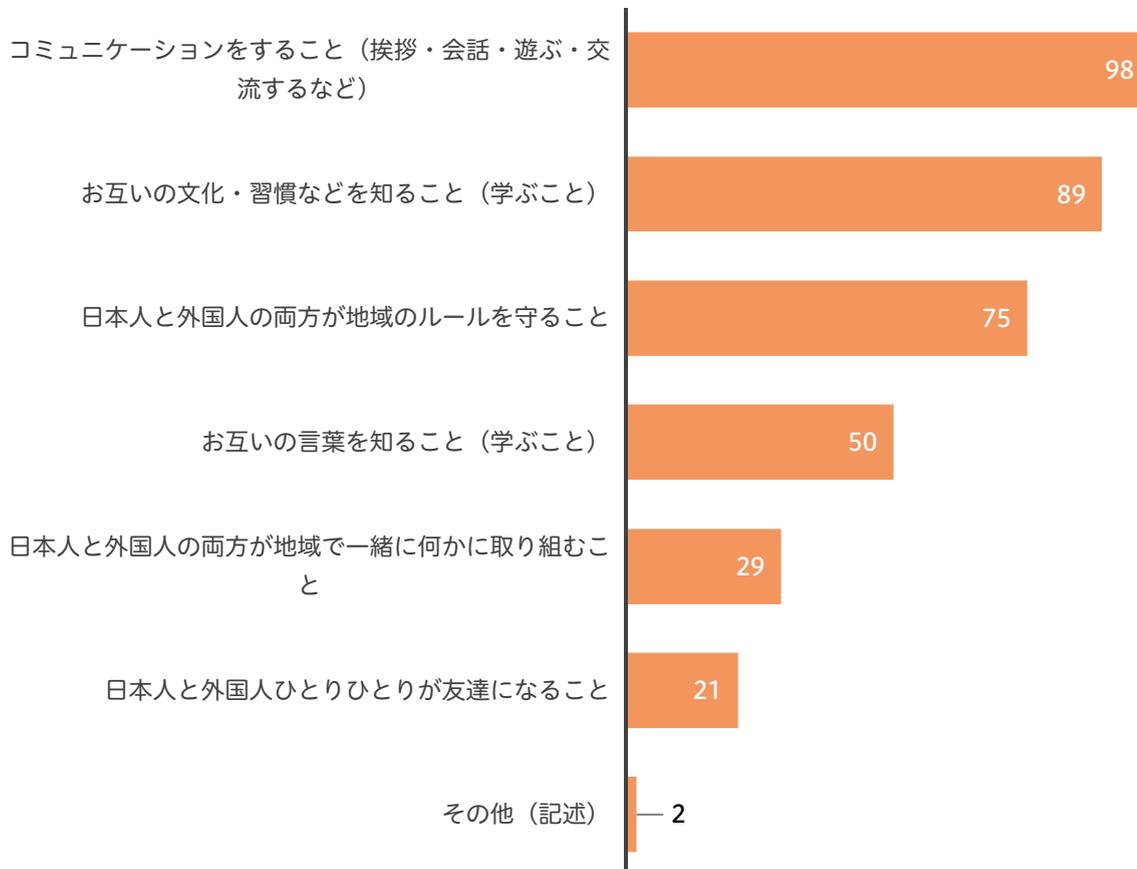
Q13.栃木県では、外国人住民が増えています。外国人住民を理解する上で（あなたが外国人の場合は日本人住民を理解する上で）、難しさを感じる（感じた）ことはありますか。【ひとつだけ選んでください】



【調査結果の概要】

「ある」(58%)が最も多く、以下、「わからない」(22%)、「ない」(20%)と続いている。

Q14.日本人住民と外国人住民が、同じ地域で仲良く・助け合って暮らすために、どのようなことが大切だと思いますか。【いくつでも選んでください】



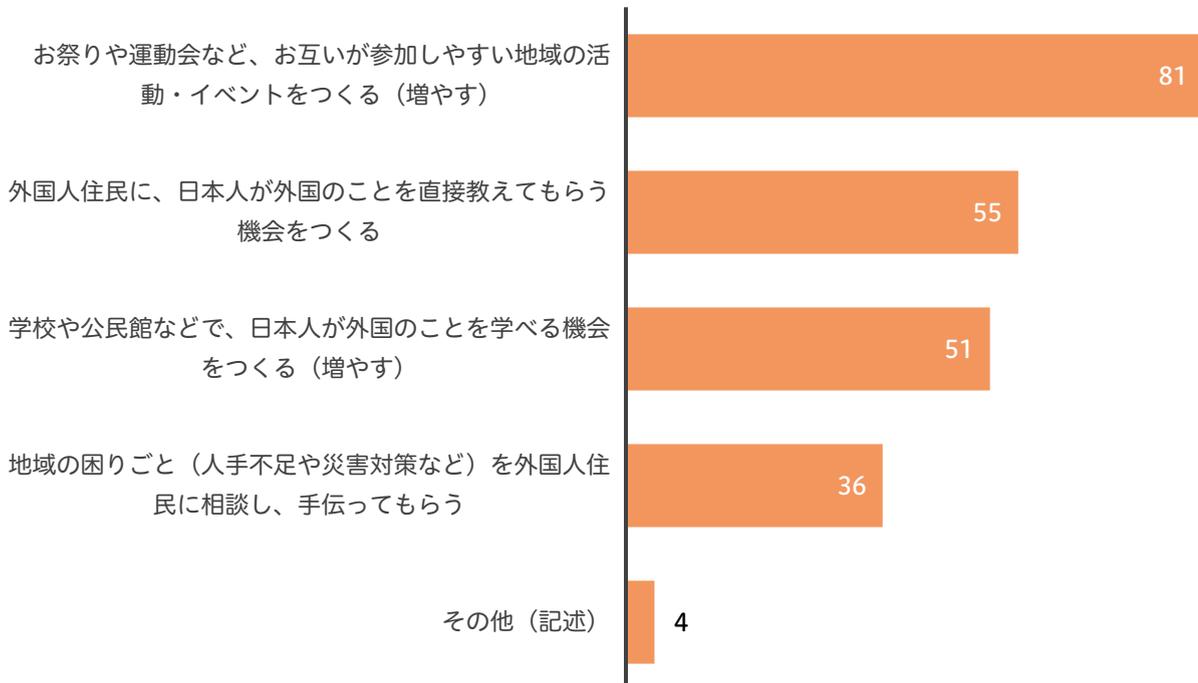
【調査結果の概要】

「コミュニケーションをすること（挨拶・会話・遊ぶ・交流するなど）」（98件）が最も多く、以下、「お互いの文化・習慣などを知ること（学ぶこと）」（89件）、「日本人と外国人の両方が地域のルールを守ること」（75件）などと続いている。

【その他の自由記述】

- ・ お互いの潜在的な苦手意識をなくすこと
- ・ 外国人が日本のルールに従うこと

Q15.日本人住民と外国人住民が、同じ地域で仲良く・助け合って暮らすために、具体的にどのようなことが効果があると思いますか。アイデアを教えてください。【いくつでも選んでください】



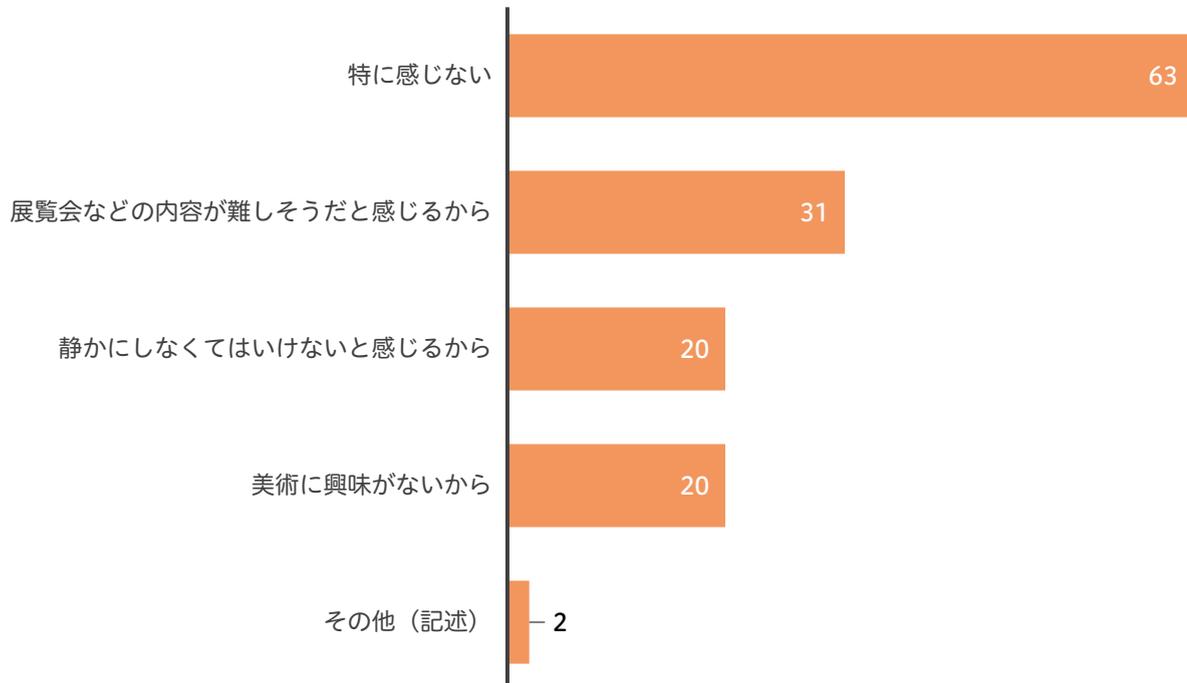
【調査結果の概要】

「お祭りや運動会など、お互いが参加しやすい地域の活動・イベントをつくる（増やす）」（81件）が最も多く、以下、「外国人住民に、日本人が外国のことを直接教えてもらう機会をつくる」（55件）、「学校や公民館などで、日本人が外国のことを学べる機会をつくる（増やす）」（51件）などと続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 外国人にも日本について知ってもらう。
- ・ 生産野菜で外国料理を教わりたい
- ・ イベントなどでは結局外国人住民の方を迎え入れたいという方しか集まらないと思うのでイベントで交流するなどの案は効果がないと考えます。ですが、今の所それ以外のアイデアが浮かびません。
- ・ 外国人住民に日本のルールを学ぶ機会をつくる。
- ・ 外国人に日本の文化習慣を学んでもらう

Q16.美術館を訪れるときに、心理的なハードルを感じることはありますか。また、感じる場合、どのようなものがハードルとなりますか。【いくつでも選んでください】



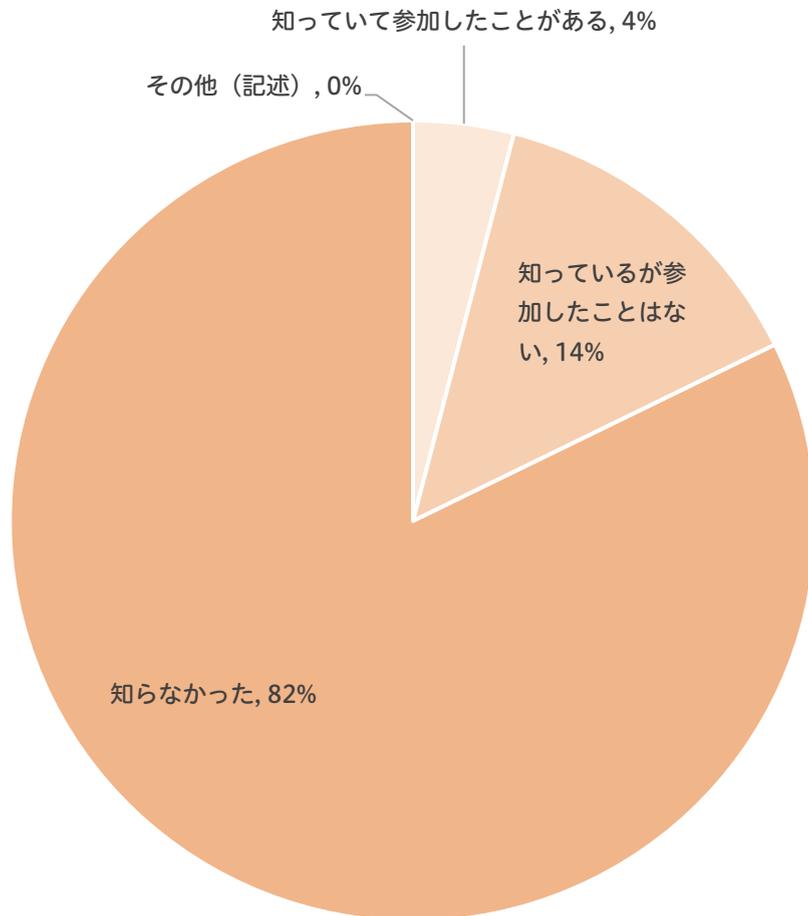
【調査結果の概要】

「特に感じない」(63件)が最も多く、「展覧会などの内容が難しそうだと感じるから」(31件)、「静かにしなくてははいけないと感じるから」(20件)、「美術に興味がないから」(20件)などと続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 知識があまりないので知らない人の作品ばかりを見ることになってしまうから
- ・ 行ったことないです。

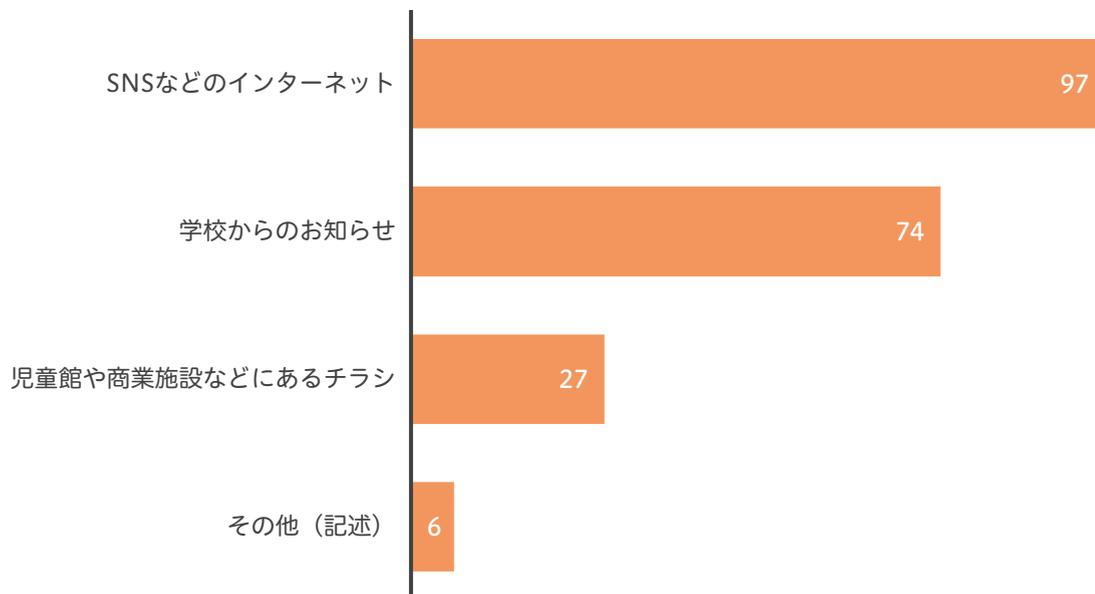
Q17.栃木県立美術館で、楽しく制作活動を行うことのできるワークショップ「アトラウンジさくら塾」や、美術館の作品をみんなで鑑賞する様々なイベントなど、様々な世代が参加できるイベントを開催していることを知っていましたか。【ひとつだけ選んでください】



【調査結果の概要】

「知らなかった」(82%)が最も多く、以下、「知っているが参加したことはない」(14%)、「知っていて参加したことがある」(4%)などと続いている。

Q18.参加するイベントなどの情報収集は、どのような媒体で行っていますか。【いくつでも選んでください】



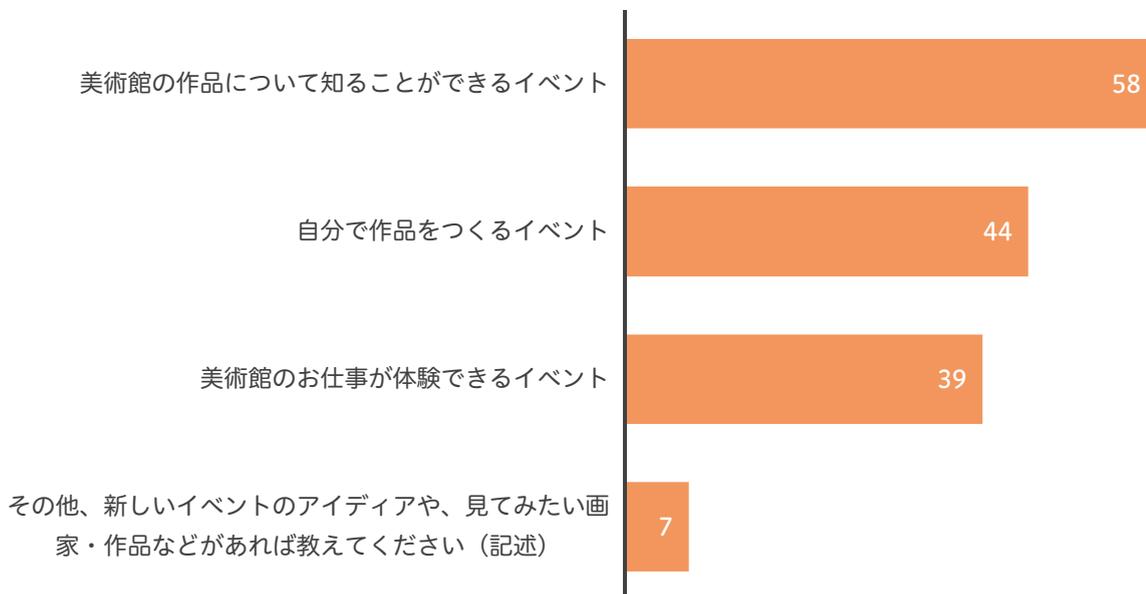
【調査結果の概要】

「SNS などのインターネット」(97 件)が最も多く、以下、「学校からのお知らせ」(74 件)、「児童館や商業施設などにあるチラシ」(27 件)などと続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 友達や親からの情報提供。
- ・ 親や友達
- ・ 家族に教えてもらう
- ・ 親
- ・ 特に積極的に収集していない

Q19.今後、栃木県立美術館で開催してほしいイベントや企画展などをお聞かせください。【いくつでも選んでください】



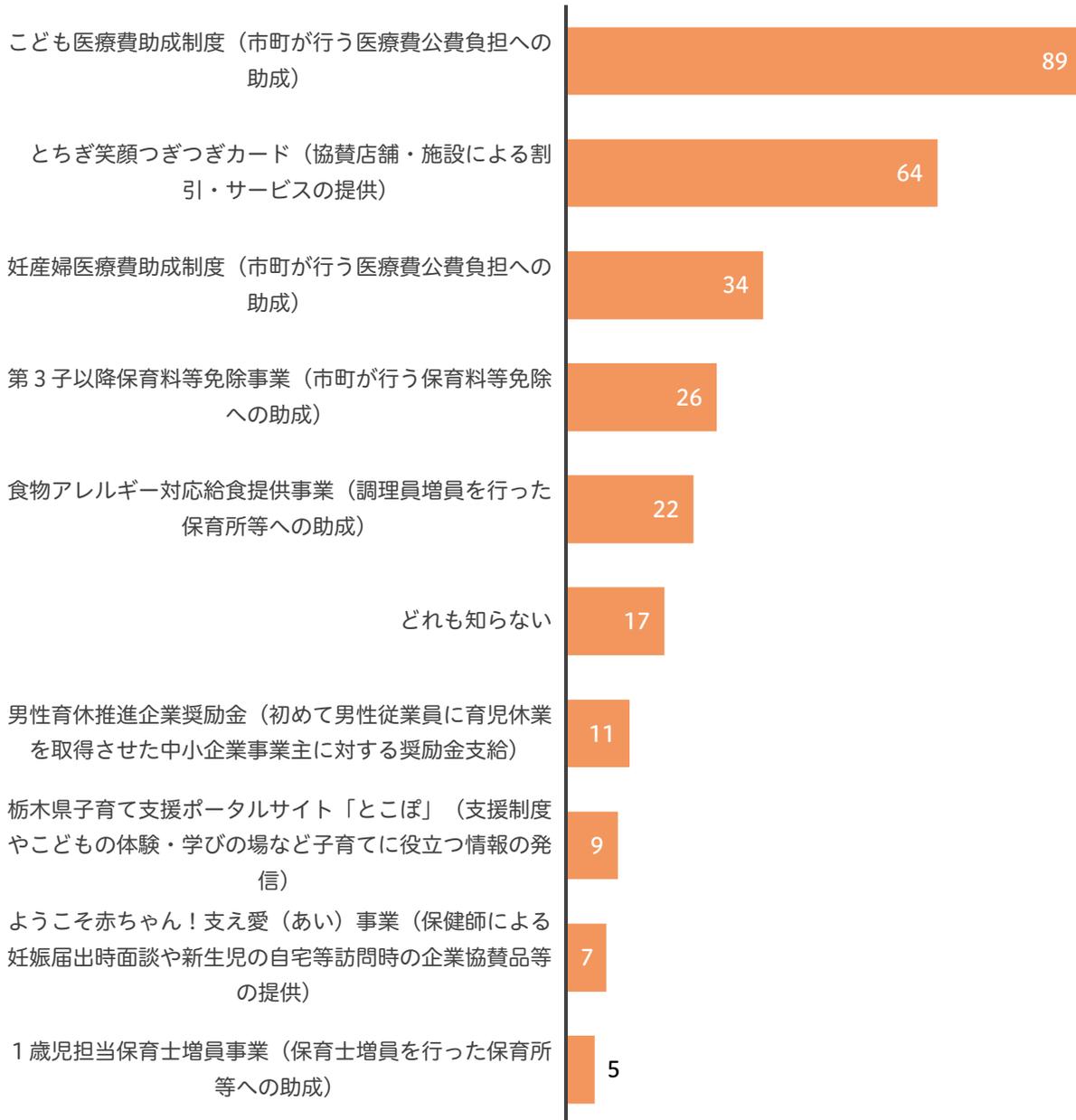
【調査結果の概要】

「美術館の作品について知ることができるイベント」(58件)が最も多く、以下、「自分で作品をつくるイベント」(44件)、「美術館のお仕事が体験できるイベント」(39件)などと続いている。

【その他の自由記述】

- ・ バックヤードを見学できるイベント
- ・ アニメ、漫画、ゲームなどのサブカルチャーのイラストやデザインの展示もしくはコラボ Splatoon 展の復刻イベント的なのがあったらすごく嬉しい
- ・ 昔の東アジアの作品など
- ・ もう開催していたら申し訳ないのですが、栃木県で取れた化石を展示して欲しいです。
- ・ 体験(例えば、蜂の巣の絵があったらその空間だけハチミツの匂いがして、自分も絵の世界に入り込めるみたいな)できる美術館
- ・ 岡本太郎タローマン

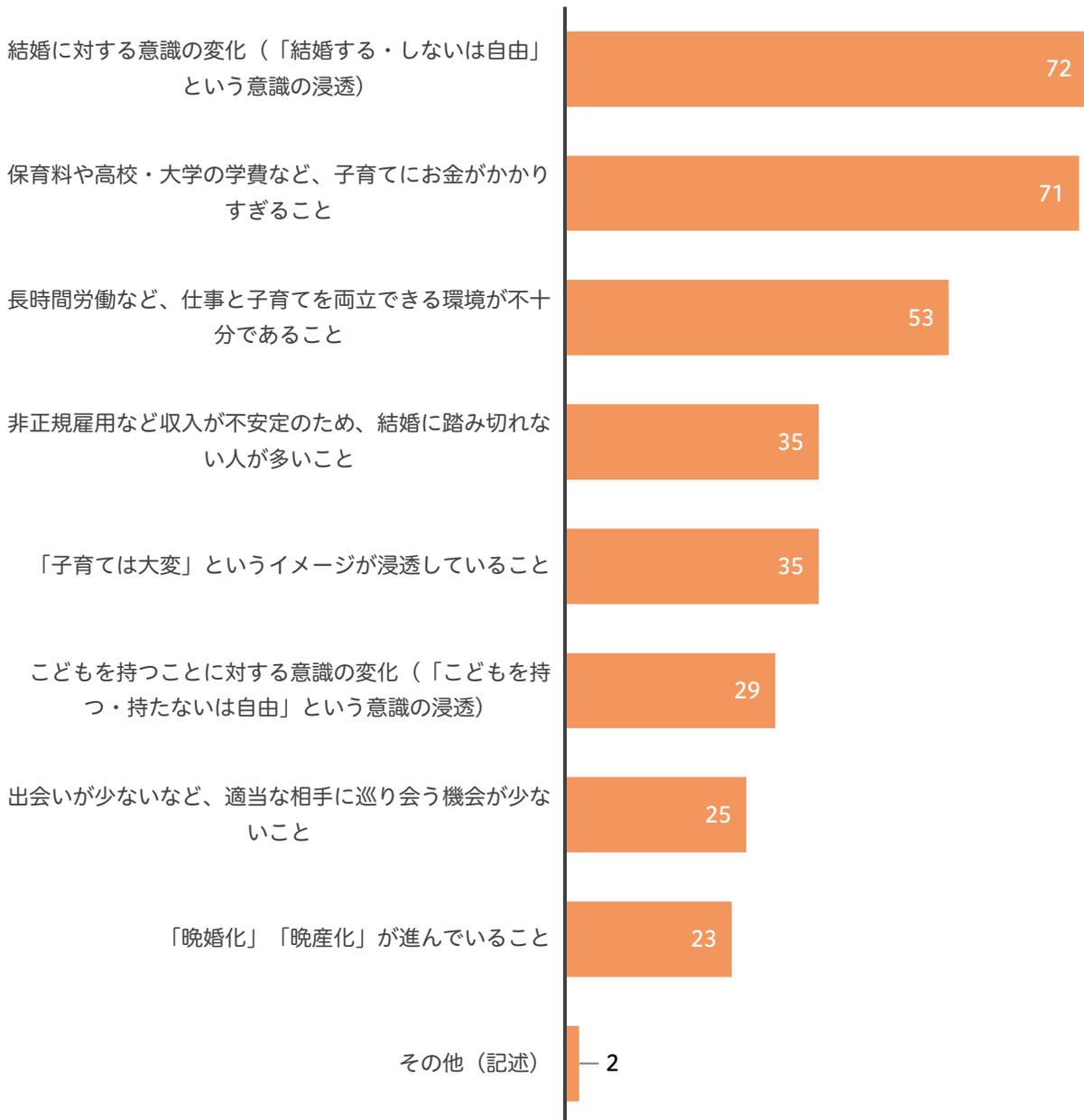
Q20.栃木県が実施している、妊娠、出産・子育て期における「こども施策」（主に県が自らの判断で実施しているもの）について、知っているものは次のうちどれですか。【いくつでも選んでください】



【調査結果の概要】

「こども医療費助成制度（市町が行う医療費公費負担への助成）」（89件）が最も多く、以下、「とちぎ笑顔つぎつぎカード（協賛店舗・施設による割引・サービスの提供）」（64件）、「妊産婦医療費助成制度（市町が行う医療費公費負担への助成）」（34件）などと続いている。

Q21.現在、日本においても、栃木県においても、少子化が進行しています。その主な原因は、どこにあると思いますか。【3つまで選んでください】



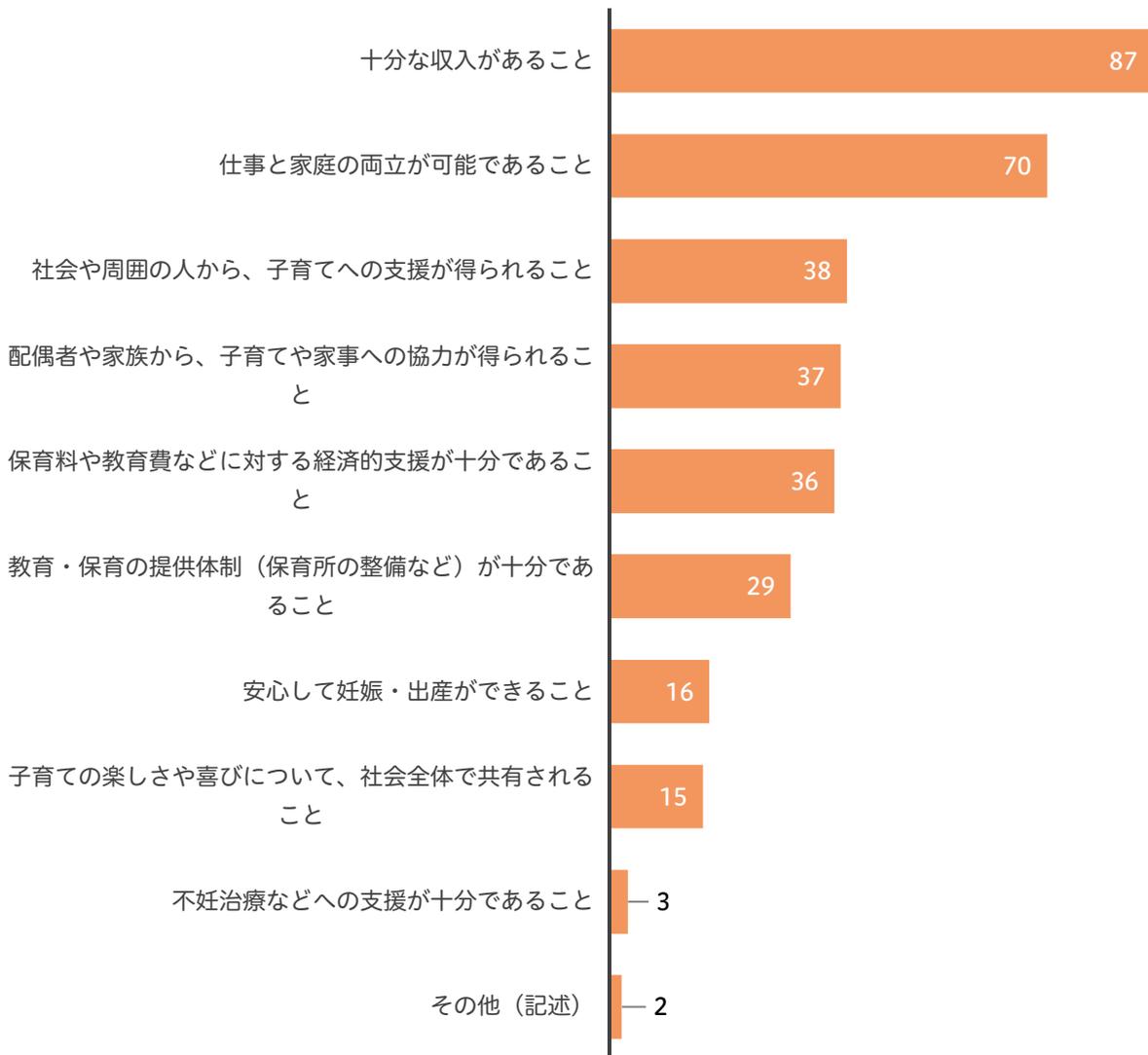
【調査結果の概要】

「結婚に対する意識の変化（「結婚する・しないは自由」という意識の浸透）」(72件)が最も多く、以下、「保育料や高校・大学の学費など、子育てにお金がかかりすぎる」(71件)、「長時間労働など、仕事と子育てを両立できる環境が不十分である」(53件)などと続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 正規雇用でも収入が少ない。物価が高い、自分の生活でいっぱい。
- ・ 意識の変化

Q22.国の調査では、「『夫婦が実際に予定するこどもの数』は、『理想とするこどもの数』を下回る」との結果が出ています。どうしたら、理想とするこどもの数を持てる人が増えると思いますか。【3つまで選んでください】



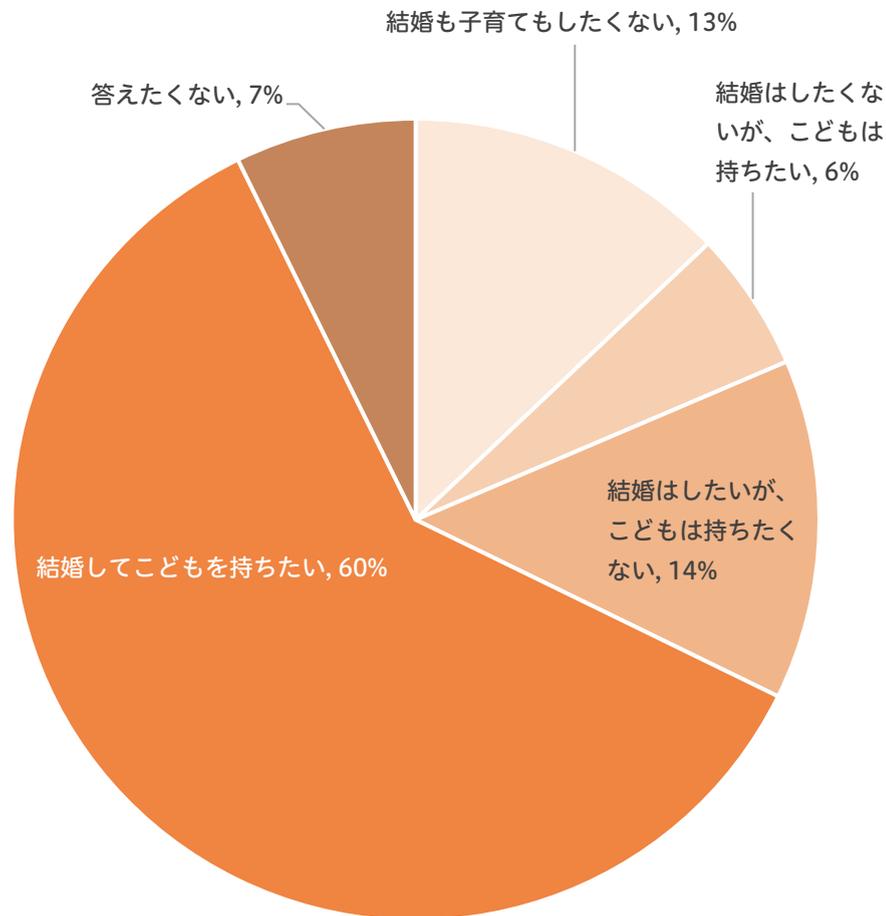
【調査結果の概要】

「十分な収入があること」(87件)が最も多く、以下、「仕事と家庭の両立が可能であること」(70件)、「社会や周囲の人から、子育てへの支援が得られること」(38件)などと続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 3つでなく、すべてかと思います
- ・ 社会や周囲の人から、子育てへの支援が得られること・教育・保育の提供体制（保育所の整備など）が十分であること・保育料や教育費などに対する経済的支援が十分であること・安心して妊娠・出産ができること
- ・ 育児休暇中(望ましいのは子供が5歳になるくらいまで)には両親ともに働かなくてもいいくらいの支援金を全員に配ったり、奨学金制度をもっとハードル低くしたりする。

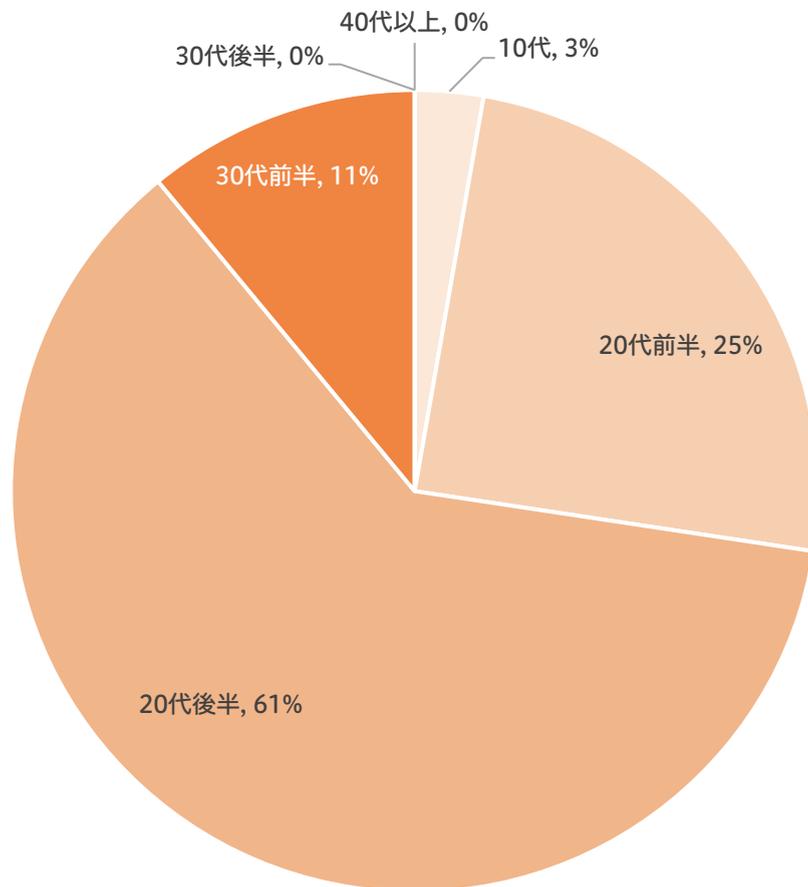
Q23.結婚や子育てに関しては、さまざまな価値観や考え方があります。次のうち、あなたの考えに一番近いものはどれですか。【ひとつだけ選んでください】



【調査結果の概要】

「結婚して子どもを持ちたい」(60%)が最も多く、以下、「結婚はしたいが、子どもは持ちたくない」(14%)、「結婚も子育てもしたくない」(13%)などと続いている。

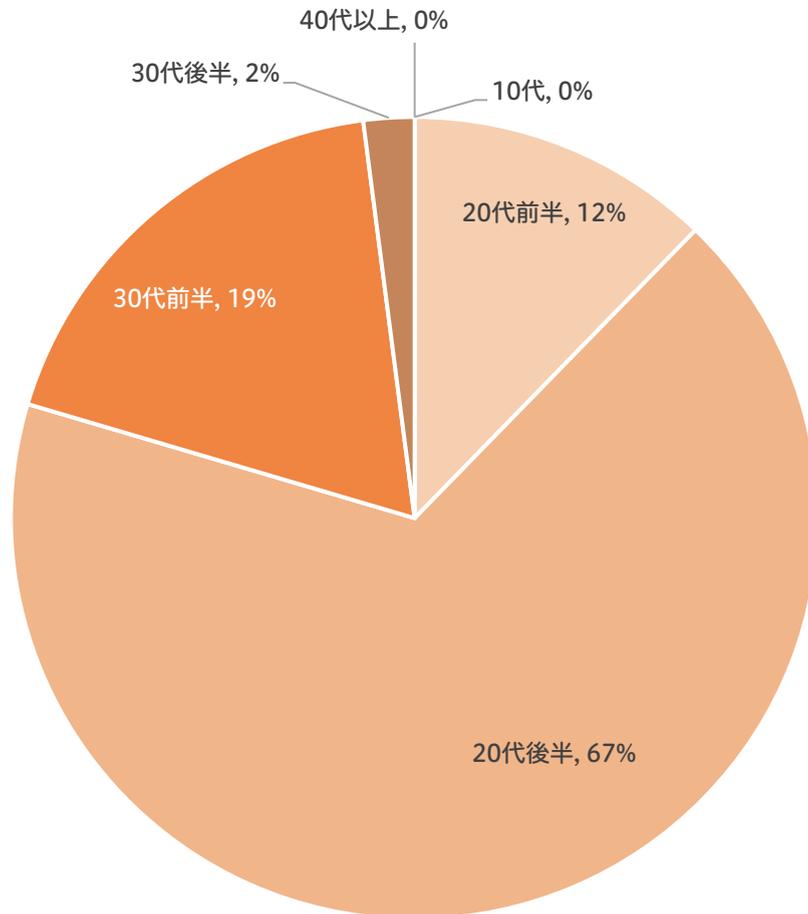
Q24. 「Q23」で「結婚はしたいが、こどもは持ちたくない」「結婚してこどもを持ちたい」を選んだ方にお聞きします。あなたは、何歳頃に結婚したいと考えていますか。【ひとつだけ選んでください】



【調査結果の概要】

「20代後半」(61%)が最も多く、以下、「20代前半」(25%)、「30代前半」(11%)などと続いている。

Q25. 「Q23」で「結婚はしたくないが、こどもは持ちたい」「結婚してこどもを持ちたい」を選んだ方にお聞きします。あなたは、何歳頃にこどもを持ちたいと考えていますか。【ひとつだけ選んでください】



【調査結果の概要】

「20代後半」(67%)が最も多く、以下、「30代前半」(19%)、「20代前半」(12%)などと続いている。